

重度障がい者の福祉に関する請願

1 趣 旨

医療技術の進歩で長生きできる重度障がい者がふえているが、圧倒的な人手不足で医療的ケアの必要な重度障がい者を夜間受け入れられない福祉施設が多いのが現状である。一方、障がい者の家族(特に親)が高齢化し、病気や事故の際に、在宅介護ができない家庭がふえている。

これらの障がい者は限られた病院に入るしかない。受け入れてくれるのは、福井県には「あわら病院(定員100名)」と「敦賀医療センター(定員120名)」の2つの病院しかなく、入所待ちの障がい者も多いため、なかなかすぐには入れない。

入れたとしても、病院なので、日中にデイサービスなどには行けない。また、買い物などにも行けず、一日中、病院のベッドに寝ているしかない状態である。重度障がいはあっても病人ではないので、長い入院生活は苦痛である。そこには絶望しかない。そんな生活を強いるのは、余りにかわいそうすぎる。人間らしい生活を営めるようにするため、下記について請願する。

記

- (1) 重度障がい者用グループホームをつくらせていただきたい。そのために以下の施策を実現していただきたい。
- (2) 重度障がい者用グループホームを開設できない最大のネックが、医療スタッフの確保である。公立病院を初めとする医療機関と十分な連携をとって、医療スタッフを確保していただきたい。
- (3) 重度障がい者用グループホーム開設にあたって、設備等に十分な助成をしていただきたい。
- (4) 看護、介護の現場では、スタッフが圧倒的に不足している。介護ロボットやAI技術を積極的に導入して、看護者、介護者の負担を軽減していただきたい。また、若い人材に魅力的に映る福祉の職場になるよう支援していただきたい。
- (5) 多くの重度障がい者には医療的ケアが必要で、高いスキルを持った看護、介護スタッフを確保するためには現状の報酬制度では不十分である。重度障がい者用グループホームの報酬単価の引き上げを国に対して働きかけていただきたい。

2 提 出 者

数馬和春 ほか5人

3 紹 介 議 員

松田泰典、渡辺大輔、鈴木宏治

4 受理年月日

令和2年2月17日